

松田 周作

設計事務所 主宰 一級建築士資格取得

居住環境学専攻(居住環境学科) 平成 15 年度卒業

環境共生学研究科 修士(博士前期)課程 平成 17 年度修了

松田周作建築設計事務所 の主宰として、建築の設計を行っております 松田周作 と申します。

「建築家になる」ことを夢に描いておりましたから、自身の設計事務所を立ち上げる(独立の)為には、必ず一級建築士を取得することを考えておりました。

一級建築士の試験勉強は、建築実務に必要なあらゆる知識の導入部分を、幅広く習得できることに意義があったと考えます。

日本の建築士免許は、一級と二級があり、設計可能な規模や用途や構造などが限定される二級は都道府県による交付、制約を受けない一級は国による交付となります。

建築の実務において、ある建築(設計対象)に対して、特に構造において、あらゆる可能性を検証し、最適解(設計案)を探求できる点に、一級建築士の魅力があると考えます。

特に独立に際しては、施主に対して、最良の設計案を提示する使命感に立つならば、構造の制約の無い、一級建築士の取得が必要と、私は考えている次第です。

一方で、新入生の皆さんが、独立の為にとるべき戦略(道のり)は、耐震偽装事件に伴う建築士法の改正に沿ったものでなければなりません。

建築士の種別を問わず、免許交付(登録)から、丸3年間の実務経験を経て、ようやく管理建築士になることが可能となり、つまり、独立が可能となります。

ですから、熊本県立大学を通じ取得可能になる建築士(二級or木造)を早急に取得し、建築士として実務経験を重ねることで、一級建築士や管理建築士を目指して頂きたいと願う次第です。

次に、一級建築士の試験勉強についてですが、私は1年目は独学で学科試験が2点及ばず、2年目は資格学校に通い、ようやく合格きました。

一級建築士の試験の合格には、かなりのエネルギーと要領が必要ですから、合格という目的の為に、余分な一年間の時間と労力を費やすならば、覚悟を決めて、資格学校に通って、一発合格を目指すのが良いように思います。

世の中に対して、施主に対して、創られる建築の到達点は、その設計者の能力や可能性に限定されます。

ですから、建築家や一級建築士となつても、建築作品の更なる高みを目指して、設計者として、生涯、その能力の鍛錬に努めなければなりません。

熊本県立大学の新入生の皆さんから、建築の可能性を徹底的に探求する建築家(一級建築士)が、一人でも多く誕生する未来を、心から応援し、祈っております。